

原野谷学園地域検討委員会（状況報告）

1 地域検討委員会のまとめ

地域検討委員会で検討を重ね、現在、下記の内容でまとまっています。

- (1) 原野谷学園の地域性や現状を踏まえ、小中一貫教育を推進するためにふさわしい学校の在り方として、小中学校施設一体型の学校の整備が望ましい。
- (2) できるだけ早期に基本構想の策定等に着手し、多くの児童生徒が在籍し、多様な関わりを持つことができる新しい教育環境の実現を期待する。
- (3) 小中学校施設一体型の校舎建築にあたっては、先進校の良さを取り入れるとともに、本検討委員会や地域住民の要望をできる限り反映していただきたい。
- (4) 将来的には、児童生徒数の推移等も考慮し、一学年複数学級を維持していくためには、近隣地域との調整等についても検討していただきたい。

2 小中一貫教育

小学校と中学校が目指すべき子ども像を共有し、9年間を通した教育計画により、小中の連続性に配慮した教育を実施すること。掛川市が中学校区学園化構想でこれまでに進めてきた保幼小中の連携をさらに深めた教育を目指します。

（原野谷学園の目指す子ども像は「夢を抱き りりしく歩む 原野谷っ子」です。）

3 小中学校施設一体型の学校

小中一貫教育を進めるための校舎の在り方としては、施設一体型、施設隣接型、施設分離型があります。その中の施設一体型の学校とは以下のような学校です。

- (1) 小学校と中学校の校舎が同じ敷地の中にある。
- (2) 小学校と中学校が同一校舎、または渡り廊下で連結されている。
- (3) 教職員、児童・生徒の移動がスムーズに行うことができる。



磐田市ながふじ学府構想図(小中学校施設一体型)

4 施設一体型の学校の良い点

(1) 少子化の影響を克服することができます。

一緒に生活する子どもの人数が増え、より多くの子どもたちが関わり合える環境となり、社会性が育ちやすい。

(2) 中学校教育の専門性を生かすことができます。

中学校教員の専門性を小学校教育で生かし、質の高い教育を展開することができます。例えば、小学校外国語科の授業に中学校の英語科教員を配置することなどが考えられます。

(3) 中1ギャップ（※中学生になると不登校等が増えること）を解消することができます。

小学校と中学校を一体化することにより、小中の接続をより円滑に行うことができます。

(4) 学校施設の老朽化と財政問題に対応することができます。

5 一般的な学校施設整備の流れ

本事業とは別に、次年度から検討が予定されている市内全小中学校を対象とした**小中学校の再編計画**の検討を踏まえて、学校施設の整備等を行っていきます。

(1) 学校建設の建設工程

ア 小中学校施設整備に向けた**基本構想**の策定（1年～2年）

※目指す学校の姿、学校を設置する場所、開校の時期、施設整備の内容等について検討を行う。

イ 建設工事の**基本設計**（1年）、**実施設計**（1年）

※具体的な建設工事の設計を行う。

ウ 必要に応じて用地の取得、敷地の造成

エ **建設工事**（2年）

(2) 学校開校準備委員会での検討（2～3年）

※学校の名称、校章、校歌等の検討、一体化に向けた調整を行う。